

## 令和6年度 第2回介護福祉学科教育課程編成委員会 議事録

日時：令和7年2月20日（木）

15時30分～16時30分

場所：301教室

### 教育課程編成委員出席者

- A 山口県介護福祉士会 会長
  - B 社会福祉法人ひとつの会 理事長
  - C YIC看護福祉専門学校 介護福祉学科 卒業生
- 欠席者なし

### 教職員出席者

- D 校長
- E 副校長 議長
- F 事務長 司会
- G 介護福祉学科 学科長
- H 書記：社会福祉士通信課程教員

#### 1. 校長挨拶

教育の効率化と学生への手厚い指導の組み合わせが重要である。外部の視点から教育課程への意見を期待している。

#### 2. 報告、議事

K：資料の確認。議事録作成のため内容の録音の許可を得る。教育課程編成委員会規定第6条に基づき、Eが議長に選任される。

E：議事の進行を行う。

議事：（1）令和6年度教育課程編成に基づく取り組みと評価

（2）令和7年度教育計画

G：資料Iに沿って説明

教育内容の充実については、1年生に対する学力強化として入学前教育を導入し、入学後に確認テストを実施。学力不足の学生への学習支援として、日本人学生9名、留学生2名を対象に学習会を実施。2年生に対する国家試験対策の強化として、模擬試験の目標得点率を70%以上に設定し、年間8回の模擬試験と1回の学力評価試験を実施。チューター制を導入し、個人面談を実施。冬期講習会の実施、介護福祉士会主催の模擬試験への参加等行った。卒業生による国家試験対策を実施し、外国人留学生への個別指導を行った。YICグループのスケールメリットを生かした授業展開として、外部講師による専門的な講義（歯科衛生士による口腔ケア、ネイリストによる爪のケア、美容師による洗髪など）を実施。広島へ福祉機器展への研修旅行を実施。シンポジ

ウムやディスカッションの実施、チームマネジメントや介護過程の事例研究に関する講義など行った。

学習支援体制については、就職支援として学内での事業所説明会（山口県社会福祉事業団）を実施。担任と YIC の総合支援室が連携し、面談を実施し、学生の不安の解消に努めた。

留学生支援体制については、留学生へのアルバイト支援として施設との情報交換や出勤状況の確認など行った。また、日本語学校講師による学習支援や期末試験の振り返りや課題提示による留学生のフォローなど実施。

地域貢献の拡大・啓蒙啓発活動については、ボランティア活動を活発に行った。介護の日イベントや児童養護施設における介護体験とレクリエーションの実施、小学校での福祉体験イベントを実施。3月には YIC 主催の地域交流イベントを計画している。

## （2）令和7年度の教育計画

教育内容の充実（YICの強みを生かした授業展開、国家試験対策の強化）、留学生及び学力不足の学生への支援体制の強化（学習支援に注力）に取り組んでいく。地域貢献活動、介護福祉分野の啓蒙啓発活動は社会性や人間性を養うために効果的であり、積極的に取り組んでいく。

議事の承認：議事（1）・（2）について全員一致で承認された

### 3. その他

E：介護福祉士会主催の模擬試験では、外国人試験の環境を整えてもらった。

A：試験会場では、留学生が一般の受験生と別の席で受験できるように配慮した。試験での予想外の記入ミスがあった。

E：学校単位でなくバラバラの席で受験する体験ができた。

B：今年度の受験者は合格できそうか。

G：クラス平均は90点。ボーダーラインが6割程度であれば日本人学生は全員合格基準に達している。留学生は5名中3名合格基準に達している。

E：2026年度以降の入学生から適用されるパート合格制度について、外国人留学生が日本に残る手段の一つとなる。

B：今後、外国人労働者の受け入れを進めなければ、介護現場を維持することはできない。外国人労働者の受け入れの余力があるため、教育体制を整える必要がある。将来的に高齢者介護のニーズは高まることが予想される。

C：口腔ケアひとつとっても、義歯のケアだけでなく残存歯のケアが求められるようになる。

G：介護現場でのテクノロジーやデジタル化が進んでいる。どんどん発信していくことで、介護業界のイメージが変わっていくのではないかと。

E：高齢者に対するケアが変わっていくことを想定した教育内容を取り入れていくことが必要。

A：テクノロジーやデジタル化が進む中で、介護過程の科学的思考力や人間性を育む必要性が高まるのではないかと。ハラスメントやコンプライアンスについて正しく学んで、現場に入ってもらいたい。

会議の終了

次年度 第1回教育課程編成委員会は令和7年10月頃を予定